

④ めまた 市議会だより

第72号

12月定例会

令和6年
2月1日



子ども議会
みんなの質問に市長・教育長が答弁



内容 子ども議会
12月定例会 など



沼田市議会HP

12月 定例会

12月定例会は、12月5日に開会し、12月15日までの11日間、市当局からの報告、条例の改正、令和5年度補正予算、追加補正予算など計20件と、議会からの請願書1件を審議しました。

また、12人の議員が一般質問を行い、市当局と活発な議論を展開しました。

住民税非課税世帯に

7万円を給付

国の令和5年度補正予算において措置された、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金（低所得世帯支援枠）を活用し、物価高により厳しい状況にある生活者への支援として、住民税非課税世帯等に対して1世帯7万円の給付に要する経費、3億5,687万3,000円を追加しました。



令和5年度補正予算

国庫支出金の確定、制度改正などにより、既決の予算に増減を生じるもの及び緊急に措置しなければならぬものに限定し、8億2,910万7,000円を追加しました。

主な内容は、介護給付費、訓練等給付費及び障害児給付費の追加、福祉医療費扶助費の追加、国庫支出金返還金及び県支出金返還金の追加、鳥獣被害対策事業費補助金の追加、畜産飼料高騰対策補助金の減額、酪農・肉用牛経営継続資金の追加、追貝平土地改良区事業における県営事業負担金の追加、林道整備管理事業における除雪委託料の追加、物価高騰対策事業継続支援金の減額、空家解体補助金の追加、消雪施設維持管理事業における燃料費及び光熱水費の追加

なごです。

市議会議員、特別職、職員 の期末手当支給割合を改定

人事院勧告で、期末手当の引き上げの見直し勧告され、本市職員の期末手当についても国に準じ、所要の改定を行いました。またこれに合わせ、市議会議員、特別職、会計年度任用職員の期末手当についても改定しました。

条例に反対

（一部抜粋）

職員の給与の引き上げは、物価高騰に追い付いていません。議員や特別職の引き上げ分を職員の給与の引き上げに充てることが必要です。生活の厳しさは我々議員も変わりありませんが、今の情勢のもとでは一時金の引き上げは認められません。

条例に賛成

（一部抜粋）

全国的に地方議員のなり手確保が議論されています。議員の報酬の在り方を論じ、多様な市民がお互いを尊重し合い、未来を論じ合える「議会新時代」を切り拓く事が可能な仕組みや制度を備えた市議会目指し精一杯の努力をお誓いし、賛成します。

常任委員会

民生福祉常任委員会

請願を採択

「国民のいのちと健康を守るため、医療・介護施設への支援を拡充しすべてのケア労働者の賃上げや人員増を求める請願書」について、民生福祉常任委員会では慎重な審査を行った結果、全会一致で「採択すべきもの」と決しました。

請願の趣旨は、国民のいのちと健康を守り、安心・安全で質の高い医療、サービスの提供を行うため、医療や介護の現場で働くすべてのケア労働者の賃上げと人員配置増につながるよう、診療報酬と介護報酬を抜本的に引き上げる臨時改定を実施すること、およびすべての医療機関や介護施設に行き渡る物価高騰支援策を拡充するよう、国に対し、意見書の提出を求めるものです。

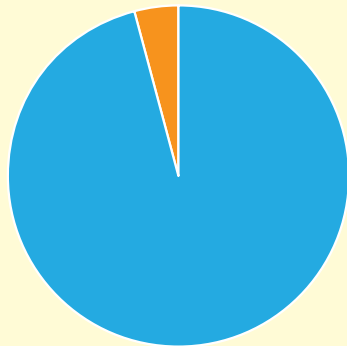
現状に目を向けると、「2022年雇用動向調査」において、「医療・福祉」の入職超過率が0・9ポイントのマイナス。離職職者が入職者よりも多い、離職

沼田市子ども議会 市長、教育長に堂々と質問

市内小中学生と本市在中の高校生代表による「子ども議会」が11月18日、テラス沼田5階議場で開催されました。子ども議会は子どもたちの夢や豊かな感性を市の発展に反映させることをなどを目的に実施されています。子ども議員たちは、自分たちで考えた市の問題に関する質問やこれからの沼田市の活性化についての政策提言などを堂々と行いました。

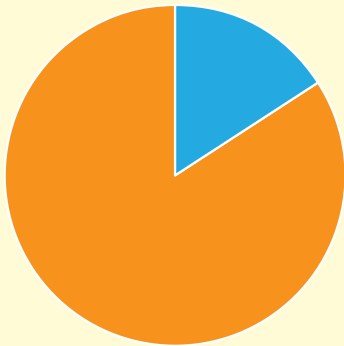


■アンケート結果（抜粋）
子ども議会に参加してどうでしたか。



■よかった
■大変だった

子ども議会に参加して市役所の仕事に興味をもちましたか。



■もともと興味があった
■参加して興味をもった

■感想（一部抜粋）

- ・すごく緊張したけど、はっきりと大きな声で質問できたのでよかったです。
- ・こんな機会はあまりないのでよい機会になりました。自分の意見で実施できることがあ

ればぜひ実施してほしいです。
 ・他の人の意見はいろいろな特徴があって、抱えている問題点も違っていたので、聞いていてとても共感できました。また、市長や教育長の話を聞き、自分たちの意見と向き合ってくれている姿勢がとてもカッコよかったです。
 ・沼田市を活発なものにするため、このような場は大切だと思いました。複数、会を開くのもよいのではないかと思いました。
 ・議会に関わることはないと思っていました。今回子ども議会に選ばれて衝撃でした。興味がわきました。このような取組ができてとてもうれしかったです。もっと議会について知りたいなと思いました。
 ・子ども議会に参加し、小・中・高でそれぞれ色々な意見があり、自分も納得のいく意見も多くとても感心しました。また、初めて参加してみても自分の意見を伝えるのにこんなに責任があるんだと改めて実感しました、とても貴重な経験をしました。

超過状況となっています。また、コロナ禍の影響、そして40年ぶりの物価高の影響を大きく受け、医療・介護の現場・運営は厳しい状況に置かれています。この状況は、まさに今、地域医療・介護を維持することを困難にされており、志や使命感、責任感だけで解決できるものではありません。
 国においても、検討が重ねられ、様々な取組が行われておりますが、現下の厳しい状況を改善していくためには、ケア労働者の社会的役割にふさわしい賃金水準を実現し、人材流出を食い止め、人員増につながる施策を行うとともに、疲弊する医療・介護施設への経済的支援の拡充は不可欠です。国による一刻も早い対応、そして少しでも手厚い改善につながる対応がされることを切望し、全会一致により、「採択すべきもの」と決定しました。



一般質問

小中学校給食費無償化へ、市長の公約実現を

齋藤 育子



Q給食費無償化の検討状況と市長の考え方について伺います。

A本市における令和4年の出生数は203人でした。少子化が止まらない状況であり、少子化対策は最重要課題であると認識しています。子育て世代への支援として公約のひとつに掲げた給食費の無償化については、まず、中学3年生を対象とした無償化を実施しました。引き続き、給食費の無償化をはじめ、子育て世代の負担減を図り、子どもを産み、育てやすい環境の整備に努めたいと考えています。

Q市内における雇用と働き手の確保による持続可能な沼田市の構築について伺います。

A企業誘致による雇用の創出を目指し、現在、横塚工場適地における産業団地整備を進めています。また、それと同時に働く人の確保に係る施策も進めなければならぬと考えています。引き続き、ハローワークなどの関係機関と連携し、効果的な施

策を推進したいと考えています。

Q現在の財政状況を踏まえた財源確保の考え方を伺います。

A令和4年度決算では、感染症の収束により市税全体では増収となり、今後さらなる景気の回復が期待されるところでありますが、原油価格や物価の高騰なども相まって大幅な市税の増収は見込めない状況です。財源確保は一朝一夕にできるものではないことから、引き続き、財源の確保に全力で取り組んでいきたいと考えています。

なお、当面の施策に必要な財源については、現在多額の投資をしている企業誘致が結実したときの増収も見据えながら、財政調整基金などの既存財源を有効に活用したいと考えています。



物価高騰に伴う影響を受けている方の支援

茂木 清七



Q沼田市の基幹産業でもある第一次産業のこれからについて、畜産農家への支援について、畜産の農家の粗飼料高騰による影響を沼田市としてどのように考えているのかについて伺います。

A畜産経営における生産コストの上昇は認識しています。本市としても、国・県と連携し検討していきたいと考えています。

Q今年の春の凍霜害やひょう、夏の高温や雨不足など、毎年のように異常気象が起こっている状況ですが、沼田市として今後どのように農家の対応を進めていくのかについて伺います。

A地球温暖化による影響もあると思いますが、食味も良く、低温に強い品種の開発を県に要望しています。また、収入保険への加入が最も効果的であり、今後、最重要課題として取り組んでいきたいと考えています。

Qサラダパークぬまた利活用事業における優先交渉権者が白紙撤回されましたが、その後の状

況について伺います。

A優先交渉権者との協議を行ってきましたが、市において事業を実施する環境が整わず、事業の中止を決定してきました。その後の状況については、地域の方々のご意見を伺いながら検討を進めています。

Q未来を担う子どもたちのため、学校体育施設の開放時間の見直しと今後の在り方について教育長に伺います。

A各施設の開放時間については、学校長の許可を得た上で利用しています。学校体育施設の一般開放は、地域住民の理解と協力が必要で学校との連携が欠かせないことから、引き続き研究していきたいと考えています。



粗飼料高騰に伴う畜産部会からの支援要請の様子

エネルギー政策による地域活性化の実現

桑原 敏彦



Q再生可能エネルギーの拡大計画について伺います。

A公共施設への設置を積極的に推進するほか関係企業の動向等を注視し、地球環境にやさしい自然エネルギーの活用に向けた研究をしたいと考えています。

Q沼田市新電力事業の検討について伺います。

A地域への継続的な再生可能エネルギー導入に貢献するなどの利点が考えられますが、先行きが見通せないことなどから引き続き研究したいと考えています。

Q新たな廃棄物処理施設へのバイオマス発電の導入について伺います。

A現在、利根沼田広域市町村圏振興整備組合において構成市町村のごみ処理の現状把握、将来予想、処理方式の検討などを行っています。同組合と連携しながら検討をしたいと考えています。

Q市民や企業が行う脱炭素事業による新たな産業振興の連携と支援について伺います。

A沼田市地球温暖化対策実行計画に基づき、市民や企業等との連携・協働により、脱炭素事業を推進したいと考えています。

Q脱炭素まちづくりアドバイザー制度の導入と人材育成について伺います。

Aアドバイザーの受け入れの研究や、国や県が実施する人材の確保・育成事業の研修等の機会を活かしていきたいと考えています。

Q民間企業による脱炭素事業を支援するための交付金等の活用について伺います。

A環境省や経済産業省等が支援をしており、メニューも増えています。関係団体等と連携しながら脱炭素事業を推進したいと考えています。



薄根地区コミュニティセンターに設置したペレットストーブ

テラス沼田1階・ぬまた起業塾・市営住宅

鈴木 誠



Qテラス沼田1階の、まちの広場や多目的スペースを商工観光業の振興に、そして街の賑わいの核として整備していくことが望ましいと考えます。この2カ所スペースの、今後の利活用方針について伺います。

Aコロナ禍により自粛や制限もあり利用の減少も見られました。今後も、できるだけ多くの皆様にご利用いただけるよう、利用しやすい環境の整備に努めたいと考えています。

Qぬまた起業塾は地域活性化に一役買う事業であると思っております。もっと広く情報を発信していくべきと考えますが、市長の考えを伺います。

A塾生・卒業生それぞれの取組に焦点を当てた情報発信が重要と認識していますので、効果的な情報発信に努めていきたいと考えています。

Qぬまた起業塾の高額な運営費については見直すべき課題と考えます。市長の考えを伺います。

A今年度のぬまた起業塾運営費は合計で765万2千円です。運営費が高額とのご指摘ですが、本年度においては、運営支援業務委託内容の見直しを行い、一部経費を削減しました。今後においても、運営の効率化に努めながら、起業による地域経済活性化が図られるよう、事業を推進していきたいと考えています。

Q老朽化した木造市営住宅の現状について伺います。

A現在、一部市営住宅においては浴室内の風呂釜、浴槽及び給湯器等を設置しておらず、入居者の個人負担となっており、入居案内の際には、設備についての説明を行い、丁寧な対応に努めたいと考えています。



一般質問

市民と協働するまちづくりの課題と方向性

高柳 勝巳



Q 行政区役員の担い手不足の沼田市としての具体的検討や市の委託業務の検証と見直しについて伺います。

A 担い手不足につきましては、大きな課題と捉えており、区長等の役員をはじめ、各種委員等を引き受けてくれる人を探すことに、大変なご苦労をされていると伺っています。

長年積み重ねられた多種多様な業務が、役員や各種委員等の担い手不足の要因にもなっていると考え、その負担軽減に向けた検討を始めたところです。

委託業務の見直しにつきましては、紙媒体をデジタル化して市ホームページ等で発信することにより、効率化、省力化が図れるものと考えていますが、当分の間は紙媒体を残す必要もあると考えています。

Q 地区コミュニティセンターを、移動販売車の立ち寄り場と買い物支援の拠点、「居場所づくり」の実践の場として活用していく

ことについて伺います。

A 買い物不便、移動手段に不安を感じるというご意見もありましたので、コミュニティセンターを移動販売車の立ち寄り場、買い物支援の拠点とすることにつきましては、引き続き、住民の皆様よりご意見を伺いながら、研究していく考えです。

「ぬまくる」を利用し地区コミュニティセンターにお越しただき、各種講座やイベント等の参加を通して住民同士の交流を深めるなど、より身近な施設としてご活用いただければと考えています。



コミュニティセンターでのお菓子作り講座の様子

観光政策・雇用政策について

小野塚正樹



Q サイクルツーリズムという観光手法について、沼田市が取組んでいることや今後の活用について考えを伺います。

A 「サイクルツーリズム」につきましては、地域活性化や観光資源を再発見する手段としても注目を集めています。

サイクリングアプリを活用した、利根沼田各市町村を巡るコースによる「ぐるっとねらいど」が開催されており、本市をはじめとした利根沼田各市町村の地域活性化や観光振興の一助として成果があったものと考えられます。

【横塚工場適地における企業誘致の現状について】

Q 市は、どんな産業が今後の沼田にとって良いと考えているのか、また現時点で誘致の手応えや期待してよいのか伺います。

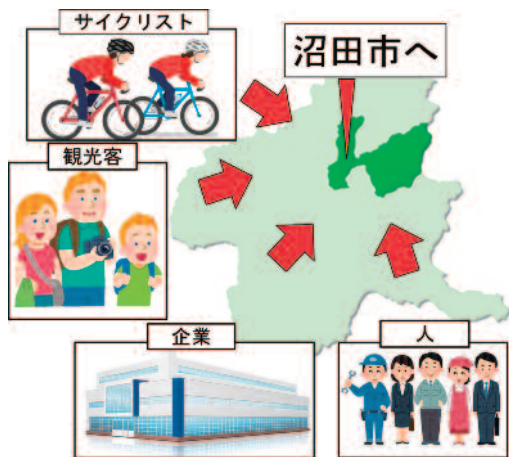
A 事業化決定前ではございますが、製造業や情報通信業など様々な業種の企業から問い合わせをいただいています。

現在の状況といたしましては、

県企業局の事業化決定を見据え、必要な手続きや協議を進めている段階でございますが、誘致企業稼働までの具体的なスケジュールなど詳細についても、県や庁内関係各課と調整を進め、本市経済の発展につながる企業誘致を推進していきたいと考えています。

【その他質問】

沼田公園整備・沼田市へのアクセスの向上・ごみの減量・都市計画道路についてそれぞれ質問を行いました。



市政を問う!!

新年度予算、物価高騰対策、ごみ処理施設

大東 宣之



安全・安心なまちづくり

星野 妙子



Q 新年度予算編成についてどのような考えで臨むのか伺います。

A 創意と工夫により、課題解決の実践、市内経済の活性化、生活基盤の整備及び子育て支援など、市民生活の安定と向上に資する施策の充実を図るものとして、予算編成に臨んでいます。

Q 市民の安心、満足度を高める施策にどのように取組もうと考えているのか伺います。

A 課題をしっかりと解決していくことで、将来への責任を果たしていきたいと考え、変化に適切に対応していくことも必要です。状況や市民ニーズの把握に努め、反映させられるようにし、着実に実行していくことが、市民の安心や満足度の向上につながるかと考えています。

Q 市民生活、市内経済への支援についてどのように取組むのか伺います。

A 社会情勢や国の動向に留意していきたいと考えています。

Q 福祉灯油についてどのように

検討し、対応するのか伺います。

A 国の経済対策や物価高騰等の対策を踏まえ、引き続き研究していきたいと考えています。

Q ごみ処理施設建設候補地の搬入路等の課題について、どのように検討されるのか伺います。

A 搬入路等の課題については、基本計画作成の中で検討していくものと考えています。

Q ごみの再資源化、減量化等の取組をどのように進め、ごみ処理施設の規模、機能等についてはどのように検討されるのか伺います。

A 「施設整備基本計画」により、分別に係る統一方法の検討やごみ処理施設の規模、機能等を取りまとめたいと考えています。



白岩町の清掃工場

【利根町防災行政無線】

Q 復活整備を切望する利根町住民の皆さまへの整備進捗状況の説明と緊急告知ラジオ難聴世帯への対応について伺います。

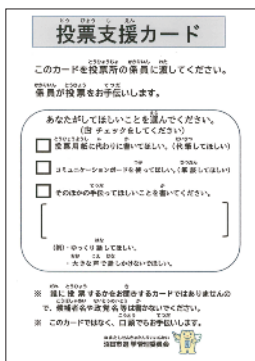
A 「防災行政無線」「防災ぬまた」「固定電話を活用した情報伝達手段」など、有効性や維持管理費を総合的に検討し、具体的な住民説明会について新年度に向けて検討したいと考えています。ラジオ受信障害世帯について引き続き改善の対応を図っていききたいと考えています。

Q 3・3・1 環状線栄町工区、変則信号機周辺の交通安全対策について伺います。

A 大型複合施設開業に伴い交通量が増加しており、庁内関係部局や沼田警察署と協議を行いながら効果的な交通安全対策を図り、安全・安心なまちづくりを進めていきたいと考えています。

Q 投票時にサポートが必要な人会委員長に伺います。

A 障がいのある方や文字・話し言葉によるコミュニケーションが難しい方の投票は「コミュニケーションボード」を受付に配備し、選挙人の意思が容易に確認できるように取組み、投票所事務従事者による投票所内の誘導や代理投票の案内などの支援を適正に行っています。



投票支援カード

Q 部活動の地域移行にどう取り組んでいくのか教育長に伺います。

A 9校の中学校に80を超える部活動が設置されています。学校・家庭・地域が連携・協働することが大切であり「沼田市地域フック活動推進協議会」を立ち上げ、令和6年度から移行可能な部活動から地域展開を進め、学校や地域の実情に応じ環境整備を進めていきたいと考えています。

一般質問

森林文化都市の実現に向けて

井上 弘



Q 今後目指していく、森林文化都市沼田の方向性をしっかりと市民と共有した上で、市民と一緒に進んでいくことが必要です。市民にとって分かりやすい森林文化都市基本構想の策定についてどのようにお考えか伺います。

A 「森林文化都市宣言」は、市民憲章と並び、本市のまちづくりの基本理念として市政運営の指針となっています。引き続き、本市における理想の都市像として、沼田市第六次総合計画基本構想に基づき、各施策を進めていきたいと考えています。

Q 子どもの頃から日常的に木に触れていく木育を推進していくことについてどのようにお考えか伺います。

A 誕生から成長過程において木に触れ温もりを感じることで、人と木や森との関わりを主体的に考えられる心豊かな人間形成や発達教育に寄与することを期待しています。



玉原高原のブナ林

Q 電子地域通貨てんぐーでの行政ポイント、ボランティアポイント等付与に関する実施・検討状況を伺います。

A てんぐーの持続的な推進のためには、行政ポイントやボランティアポイントの充実も重要な課題ですので、利用店舗の拡大や機能の充実とともに検討していきたいと考えています。

Q 市内企業の人手不足解消につながる企業の奨学金返還支援制度を市内企業に推進する考えはあるか伺います。

A 若い世代の定着につながる制度であると認識していますので、積極的な周知に努めていきたいと考えています。

ぬまた未来創造学について

齋藤 智



Q ぬまた未来創造学を実施する上での目的と目標について教育長に伺います。

A 未来を担う子どもたちが、沼田を知り、よさを学ぶことで、地域を愛し親しむ心、地域を誇りに思う心を育むことを目的としています。沼田に誇りと愛着をもち、沼田のよさを生かしながら継承・発展させようとする人、沼田の新たな価値を創造することのできる人、地域の方々と意思疎通を図りながら協働し、地域を支えていく人、子どもも大人も、学校も地域も、共に学び成長するために考え行動できる人への成長を目指すことを目標としています。

Q 子どもの視点から地域に提言していく教育について教育長に伺います。

A 集めた情報をもとに自分の考えをまとめ、保護者や地域、関係機関の方々が集まる場で発表・提言するなど、積極的な発言を意識することで、より深く探究

することが期待されます。

Q 校内研修や教育研究との関係について教育長に伺います。

A 教育研究所においては、「ぬまた未来創造学」に係る活動に焦点を当て、その成果を還元・活用することにより、創造的かつ実効性の高い教育実践を生み出し、結果として、子どもたちの豊かな学びや健やかな成長、学校や地域の課題解決等につなげていきたいと考えています。

Q キャリア教育との関係について教育長に伺います。

A コミュニケーション能力を高め、人と連携・協働する力を磨き、夢や目標に向かって、主体的かつ継続的に努力する力や、課題の解決に向けて、忍耐強くやり抜く力などを伸ばすことができると考えています。



市政を問う!!

アートにあふれるまちづくり 文化財活用

相澤 宗利



◎全国各地で芸術祭やアートイベントによるまちづくりが行われています。沼田市でも文化の力により、さらなる地域の魅力発信が求められますが、今後どのような方法で沼田ならではのアートにあふれるまちづくりを展開していくのか伺います。

▲脈々と受け継がれた地域の歴史や、河岸段丘などに代表される本市の特色のある自然景観を生かした、あるいは、地域性をモチーフにした、沼田ならではのアートによるまちづくりを進めていきたいと考えています。

◎自然との調和の中で、エネルギー供給においても、より環境負荷の少ないクリーンなエネルギーが必要となります。再生可能エネルギーを活用し、地元でエネルギーを生成する手段が理想的です。このことから今後の沼田市での再生可能エネルギーの推進について伺います。

▲公共施設への太陽光発電システムの導入や、補助制度による

再生可能エネルギーシステムの導入支援に取り組んでいます。再生可能エネルギーシステムの導入を検討すること併せて、非常時における電力確保についても、研究していきたいと考えています。

◎沼田市固有の文化財を集約管理しながら、地域の文化や歴史を保存し、次世代に先人たちの想いを継承することについて、今後の沼田市での文化財等の利活用の取組について教育長に伺います。

▲沼田市歴史資料館や生方記念文庫で企画展や関連行事を開催したり、旧生方家住宅でワークショップを開催したりするなど、施設の利活用の推進とともにSNS等を活用した情報発信を行っています。



埋蔵文化財調査センター

子どもたちの教育環境について

木内 修一



◎令和5年度学校再編に関するアンケート結果と学校統廃合に向けての準備組織作り、統廃合時期について教育長に伺います。

▲小中学校の適正配置を検討する際の参考資料とするため、アンケートは小中学生の保護者・未就学児の保護者・各町区長を対象に実施し「統廃合をするべきである・やむを得ない」の回答が7割を超えました。より具体的な内容で2回目のアンケート調査の準備を進めており、アンケート結果を基に学校運営協議会等の意見をお聞きして、学校再編に向けての組織作りや時期等について検討していきたいと考えています。

◎学区の編成について、その考え方や、本市の実態に合った学級数や適正人数について教育長に伺います。

▲学区は地理的状况、歴史的経緯、各地区のつながり、距離等を踏まえ設定されていると認識しています。少子化により、

本市でも大半が小規模校化している状況にある中、きめ細かな指導が行える利点もありますが、児童生徒の資質や能力を伸ばしていくため、一定の集団規模を確保する必要もあると考えています。適正化は教育条件・教育内容、保護者や地域との共通理解が必要だと認識しています。

◎将来的に空き校舎となり得る学校の活用方法を、体験学習の場や不登校児童生徒に配慮した学びの場とすることについて、教育長に伺います。

▲空き校舎となった場合、市長部局が管理することになりますが、体験学習を意図的・計画的に創出することは重要であり、不登校の支援としては社会全体で整えることが大切と考えています。



行政調査

報告

沼田市議会では、毎年、委員会ごとに先進自治体等の行政調査や管内調査を実施しています。今回は、広報広聴準備委員会の概要を掲載します。

広報広聴準備委員会

○活動経過報告

市議会では一昨年から議会改革の一環として、広報・広聴活動について議論を継続、令和5年3月に「広報広聴準備委員会委員長報告」をまとめました。

広報広聴委員会を立ち上げた当時から携わっていた議員と新人議員の間に大きな認識・意識に温度差が存在するので、これまでの経過、内容などについて「復習」をしながら、議員間の認識の一致を図ることにになりました。

これまでの「復習」の概要を一部ですが、報告します。

○議会の役割

「市議会議員は、選挙の際に特定の地域、グループの支持で当選したとしても、当選の時点で市全体のことを考える立場に

変わるものとされています。よって、議員は、市全体からみて妥当なものであるかどうかを、公益的な視点から捉え、検討し、個々の要望から全体を考ええる議員になることが求められます。」市議会議員は、現職も新人もこのことを再認識して、議会活動に取り組むことを学びました。



○これからの取組について

先進的な議会では、賛否を問う採決の前に「議員間討議」などを取り入れ、各議員の意見を最大限組み入れる形式を採用している議会もあります。

沼田市議会でもこうした先進事例を学び、より多様性にあふれ、時代に合った活発な議会になることも求められています。

本委員会では、こうした振り返りや学習を積み上げつつ、意見交換会の開催などへつなげていく考えです。

議会活動を「単発的繰り返し」に終始せず、市民からの要望も含めて、継続性を持ったものへとランクアップさせていくための政策サイクルの形成を検討します。これによって、計画的に市民の声を議会に届けられるような仕組みづくりを検討していきます。

全国の先進地事例も学びつつ、今後の委員会の中で精査していきますので、よろしくお願いいたします。今後、市内の各団体などとの意見交換を通して市議会の役割を果たしていきたいと考えております。



次回定例会の日程

次回定例会は、2月27日（火）からの予定です。インターネット中継も行っています。



編集後記

昨年の12月の議会では、過去に多数の議員が質問や要望をしてきた小中学生給食費無償化を開始することを市長自ら表明し、翌日の上毛新聞1面に掲載され、大きな話題となりました。

また、子ども議会が行われ、小中高生が自分の生活のなかにある疑問や社会問題について市長・教育長に質問を投げかけました。

このように、議会でのようなことが行われているのかを市民の皆さまに知っていただくため、議会や委員会の内容を掲載していきます。これからも「市民に開かれた議会」を目指し、市民の皆さまに議会の活動をお届けいたしますので、お時間のあるときお読みいただけます。



学校給食無償化へ

編集委員

相澤 宗利

議会だより編集委員会

委員長 星野 妙子
副委員長 小野塚正樹

副委員長 鈴木 齋藤
委員 誠 智

今成 敦子
山宮 敏夫

高柳 勝巳
齋藤 育子

相澤 宗利
大東 宣之

井上 弘